しもつがの「まなびの WA！」

令和８年３月６日

第４号

「WA！」には、輪、和、話、環などの意味合いを込め、管内の学校や教職員のつながり、温かい交流、情報交換の広がりなどをイメージしています。

発行：栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所

子どもの成長を共感し合えるパートナー

次のエピソードは、国立教育政策研究所の志々田まなみ先生が、ある学校を訪れたときの学校関係者との会話の一部です（今年度総合教育センターで開催された地域連携教員研修において志々田先生が語られていた内容を簡単にまとめたもの）。

Episode 1

あのね、志々田先生。
今、校長先生が全校生に紹介している先生、この学校での勤務、今日が最後なんだって。
半年間だけだったのに、こうして、子どもたちの前で紹介してもらえて、うらやましい。
私、７年間もこの学校でお世話になっているけれど、子どもたちの前で紹介してもらったこと、一度もないんだ…。

Episode 2

ねえ、志々田先生、見て、見て。
この、名札もらったの。
（以前から名札をもらってかけていたことは知っていることを伝えると）
ストラップの色！
この学校の先生たちと同じ色になったんだよ！

学校と地域の連携・協働推進
ハンドブック

現在展開している活動を振り返り、さらに活性化していくために参考にしてみてください。各校に１冊ずつ配布されています。ホームページからダウンロードもできます。

https://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/hureai/g_project_handbook.html

エピソードに登場するお二人の学校関係者には共通点があります。どのような共通点があると思いますか？……　実は、お二人とも、地域コーディネーターなのです。

地域コーディネーター役の方たちは、子どもの成長を共感し合えるかけがえのないパートナーです。当該校やそこに通う子どもたちに、愛情や関心、期待をもって学校と地域の架け橋となって活躍してくださっています。子どもを育てるチームの一員として、気持ちよく活躍していただける環境を積極的に整えていきたいものですね。

R8 下都賀地区地域コーディネーター養成研修

下都賀教育事務所では、これから地域コーディネーターになる方や地域コーディネーター初心者の方を対象に、毎年養成研修を実施しています。令和８年度は、以下の期日で研修を開催予定です。子どもの成長を共感し合える、地域コーディネーターとしてふさわしい方がいらっしゃいましたら、是非研修への参加をお勧めください。案内は９月頃発出予定です。

第１回	第２回	第３回	第４回
10月１日（木）	10月～11月	11月26日(木)	12月15日(火)
下都賀庁舎	現地研修	下都賀庁舎	下都賀庁舎

「Let's Go!」になっていますか？

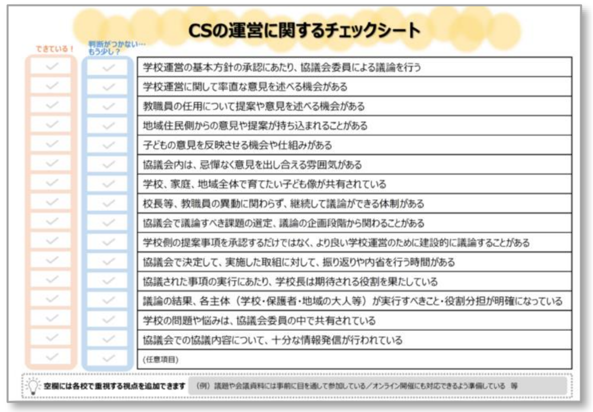
コミュニティ・スクールは、学校教育目標を達成するための「道具（ツール）」であり、学校の運営を地域とともに支える「仕組み」として役立つものです。「道具（ツール）」や「仕組み」がうまく機能するかどうかは、学校と地域が思いを一つにするプロセスが重要です。

学校運営協議会の委員の役割の一つに、校長が作成する学校運営の基本方針の承認があります。承認するというのは、単なる手続ではありません。学校のことを自分事として理解し、校長とともに運営していこうとする姿勢を示す行為です。承認とは、「OK」と言うだけでなく、「Let's Go!」と一緒に前に進んでいくための合意形成だと言えます。「一緒にやってみよう！」という気持ちが委員と学校の間で共有できたとき、コミュニティ・スクールは本来の力を発揮し始めるのです。

そのためには、委員と学校が、お互いの考えや願いをしっかりと言葉にして確認し合い、共有し合えるよう、学校運営協議会を「熟議の場」としても活用していくことがとても大切です。

CS マイスター 横澤 孝泰 氏 「特別支援学校におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動」から一部抜粋要約

活用してみてください
CS の運営に関するチェックシート



CSの運営に関するチェックシート

できている！	判断がつかない…もう少し？	項目
		学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う
		学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある
		教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある
		地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある
		子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある
		協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある
		学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
		校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある
		協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある
		学校側の提案事項を承認するだけではなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある
		協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある
		協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている
		議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている
		学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている
		協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている
		（任意項目）

空欄には各校で重視する視点を追加できます　（例）議題や会議資料には事前に目を通して参加している／オンライン開催にも対応できるよう準備している 等

協議会運営の状態に関する重要指標をチェックできるシートです。今年度の CS の運営を振り返ってみてはいかがでしょうか？

文部科学省のウェブサイトからダウンロードできます。「CS の運営に関するチェックシート」で検索していただくか、⇩こちらの URL からアクセス可能です。

https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/cs-torikumi/

学びの輪、地域の和。未来へ繋ぐ
Community School

フルーツポンチ

６大会連続パラリンピックに出場され、金メダル５個を含む合計 21 個のメダルを獲得された、河合純一氏（当時は日本パラスポーツ協会常任理事、現在はスポーツ庁長官）の共生社会をテーマとした講演会に参加する機会がありました。河合氏は講演の中で、「共生社会」を「ミックスジュース」と「フルーツポンチ」に例えて説明されていました。私たちが目指すべきは「ミックスジュース型の共生社会」と「フルーツポンチ型の共生社会」のどちらだとおっしゃっていたと思いますか？ちょっと「ミックスジュース」と「フルーツポンチ」を思い浮かべながら考えてみてください。

河合氏は、「フルーツポンチ型の共生社会」の実現だとおっしゃっていました。いろいろな果物がすり潰され、もとの形が分からない状態で混ざり合っているのが「ミックスジュース」であり、一方、「フルーツポンチ」はそれぞれの果物の形や個性が生きたまま、それぞれのよさを引き立たせながら混ぜ合わさっていると表現されていました。このように考えると、「共生社会」とは、「共に生きる社会」というよりは「共に生かし合える社会」と捉えるべきであろうと締めくくられていました。

学校には多様な子どもたちが在籍しています。子どもたちがそれぞれの個性を共に生かし合える「フルーツポンチ型の学校」になったらすてきですね。